

No. **31** 号
2023 年 3 月号
(令和 5 年)

ひらつかの風

ひらつか市民活動センターは、さまざまな分野の市民活動団体やボランティアなどで活動されている人たちや、これから活動しようとしている人たちを応援します。

CONTENTS

- P.1平塚市情報 市民提案型協働事業の募集開始
P.2団体レポート 『湘南平塚断酒新生会』
P.3お役立ち情報
P.4センター情報

団体 レポート

『湘南平塚断酒新生会』

～人生の目的は幸せになること。断酒はその手段～



平塚市情報

市民提案型協働事業の募集開始



令和 6 年度に実施する市民提案型協働事業の提案の募集を開始します。
行政と協力・連携して実施したい事業がございましたら、検討段階で構いませんので、お気軽にお問い合わせください。

募集期間 ● 令和 5 年 3 月 17 日 (金) ～ 4 月 20 日 (木)

お問い合わせ先 ● 平塚市協働推進課 電話 21-9618

詳細はこちら ● http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/kyodo/page37_00040.html

アクセス!



団体
レポート

『湘南平塚断酒新生会』

～人生の目的は幸せになること。断酒はその手段～



「湘南平塚断酒新生会」は、お酒の問題で悩む人たちが集まった自助グループです。会員とその家族がお酒のない新しい人生を明るく生きるための場づくりや啓蒙活動を行っています。

今回は、会長で神奈川県知事委託酒害相談員の保坂雅次さんにお話を伺うとともに、当センターで毎月2回開催されている例会の様子を取材させていただきました。



■断酒会とは？

断酒会は、お酒に悩む人たちによる自助組織として、高知市で1958年に誕生しました。その後、全国に支部が生まれ、1963年には全日本断酒連盟という全国ネットワークがつくられました。

断酒会の主な活動は、月2回開催される例会と呼ばれるミーティングの開催です。会員は、この例会に参加し、酒害体験（お酒にまつわる失敗談や家族に迷惑をかけた話など）や自分自身のことを率直に話し、また他の会員の話に真摯に耳を傾けます。

「断酒の誓い」(掛け声→断酒の誓い)

1. 私たちは酒に対して無力であり、自分ひとりの力だけでは、どうにもならなかったことを認めます。
1. 私たちは断酒例会に参加し、自分を率直に語ります。
1. 私たちは酒害体験を振り返り、過去の過ちを素直に認めます。
1. 私たちは自分を改革する努力をし、新しい人生を創ります。
1. 私たちは家族はもとより、迷惑をかけた人たちに償いをします。
1. 私たちは断酒の飲みを、酒害に悩む人たちに伝えます。

「連鎖握手」(掛け声→断酒を誓って～)

もっと強く もっと賢く もっと真剣に やろう！ やろう！ やろう！

湘南平塚断酒新生会 は チャンスの波

湘南平塚オリジナルの「断酒の誓い」カード



◀例会をリードする保坂さん(中央)

発言者の話に聞き入る参加者のみなさん▶



■「またここに来たい」と思える場所作り

湘南平塚断酒新生会は1967年に設立され、保坂さんは2019年9月に同会の会長を引き継ぎました。当時、平塚市内に酒害者は多いものの会員数は伸び悩んでいました。保坂さんは、以前は大きな旗に墨書きして掲げられていた「断酒の誓い」を、時代に合わせてカードにして会員に配布したり、リーダー自らが率先して失敗談を披露したりするなど、「またここへ来たい」と思えるような場作りに専念して来たそうです。その結果、就任時は3名だった会員が、今では18名に増えました。当センターで行われる例会の会議室からは、時折笑い声も漏れ聞こえ、穏やかな空気が流れています。「アルコール依存症はだれでも隠したい。相談するところがなく孤立しやすい。一人になってはいけません。ここへ通い続けてください。」会長の役目は、リーダーとして居心地の良い場所を作ること、と語る保坂さん。その想いが会員のみなさんにも伝わって、安心できる場所ができているのだと感じました。

■人は一人では生きていけない。
断酒会に参加して幸せになろう。

例会の参加者は、断酒に成功した人、現在進行形の人、たまに失敗する人などさまざま。本人だけではなく、その家族や支援者なども参加しています。また、“依存症になる根っこは一緒”との考え方で、摂食障害などを抱えている方にも門戸を開いているそうです。保坂さんは、例会の冒頭で会員のみなさんにこう呼びかけます。

「我々の人生の目的は幸せになること。その手段として断酒をしていきましょう。断酒会に参加し完全断酒がついて来たらベスト。たまに失敗してもここから離れないはベター。1年断酒が続いたからもう行かないはバッドです。アルコール依存症の背景に孤独があります。一人では断酒は難しい。健常者であっても一人では生きて行けないのです。その見本を、ここ平塚で示していきましょう。」

参加されているみなさんは、実に誠実に語り合い、聴き合っていました。そして複数の方から「ここがあったから続けられた。自分一人では無理だった。」との言葉が聞かれました。

例会への参加は申込不要です。周りに悩んでいる人がいる、または自分自身がそうであるという方は、ぜひ一度、「湘南平塚断酒新生会」に足を運んでみてください。

問合せ先

湘南平塚断酒新生会

電話 ● 090-6656-4355 (保坂)

メール ● slowhand-1955-y@outlook.jp

例会 ● 毎月第1・2木曜日 18:45～20:30

(18:00より酒害相談あり) ※申込不要

■取材を終えて

いつも見守ってくれている人がいること、素直に自分のことを語る場を持てることは、強い心の支えになるのだなぁと胸が熱くなりました。(よ)

お役立ち
情報

ご協力ありがとうございました!

「市民活動の現状に関するアンケート」

令和 4（2022）年 11 月から 12 月にかけて、センターに登録いただいている市民活動団体及び市内 NPO 法人の皆様へ、活動の現状や課題等に関するアンケートを実施し、配布数 363 団体に対し 134 団体の皆様よりご回答をいただきました（回答率 36.9%）。アンケート調査は 26 項目にわたりますが、今号ではアンケート結果の概略を抜粋してお知らせいたします。尚、詳細版については、今号の「ひらつかの風」に同封すると共に、当センターのホームページに公開させていただきますので、是非ご覧ください。
ご協力、誠にありがとうございました。

1

法人格の有無とご回答いただいた方の役職について伺いました。

区分	代表	副代表	事務局/会計	会員	その他	合計	(法人格)
NPO 法人	16		7	3		26	19.4%
一般/公益社団法人	3		2			5	3.7%
一般/公益財団法人	2		1			3	2.2%
任意団体	68	3	14	6	3	94	70.1%
その他	4				2	6	4.5%
合計	93	3	24	9	5	134	100%

※回答者では任意団体の代表者が一番多かったです。（全体の 51%）。

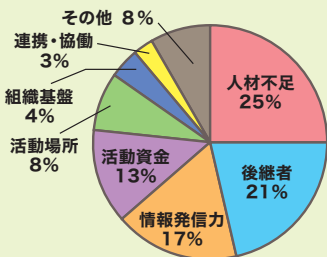


2

現在抱えている課題について伺いました。

※現在抱えている課題は、「人材不足」(25%)、次いで「後継者」(21%)、「情報発信力」(17%)となっていました。

令和元(2019)年度調査と比較すると上記 3 項目の合計値は 6 ポイントほど下がっています(56%→51%)が、活動場所の確保が 9%(2019 年度 4%)と増加しています。人材不足については NPO 法人、任意団体とも共通しており、NPO 法人は「活動資金」の課題が「人材不足」に次いで高いことがわかります。

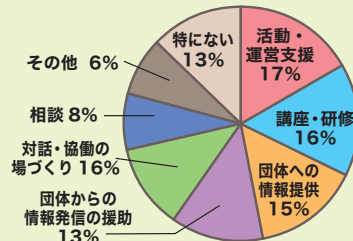


3

ひらつか市民活動センターに対して、特に力を入れてほしいことを伺いました。

※当センターへ期待することは、「団体活動/運営支援」が 17%と最も高く、以下「講座/研修の開催」(16%)、団体への情報提供(15%)となっていました。

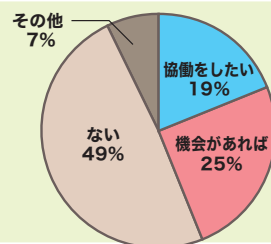
法人格別でみると、NPO 法人では情報提供は 39%、講座/研修の開催が 35%と高くなっており、任意団体は、団体への情報提供は 23%、団体活動/運営支援が 21%でした。



4

法人格の有無とご回答いただいた方の役職について伺いました。

※平塚市との協働については、回答数 134 団体のうち 25 団体(19%)が「協働・連携してみたいことがある」、34 団体(25%)が「機会があれば協働・連携してみたい」でした。具体的には、高齢者支援・子育て支援・住民への意識調査・地域防災・施設の管理運営など多岐に渡っています。市民提案型協働事業の手がなかなか上がらないといった現状がありますが、半数近い団体が関心を持っていることがわかりました。



■ NPO 法成立から 25 年 課題は次世代の担い手を育てる仕組み

行政の手が届かないところを市民が気づき支える、そんな市民の動きを後押しするために、1998 年特定非営利活動促進法(NPO 法)が生まれました。

朝日新聞のアンケートに回答した 51 団体(大半は兵庫県内に拠点を置く)の現在の課題は、半数超の団体が「活動資金」「人手不足」を挙げ、4 割超が「世代交代」を挙げています。背景に浮かぶのは資金不足。人材確保のために給与を上げたいがままならないと言った声や、最も必要なこととして「寄附文化の醸成」を挙げる団体が目立ったとあります。日本 NPO 学会会長の石田祐・宮城大教授(NPO 論)は「社会の NPO への理解が十分でないなか、資金も人手も不足し、成長の道筋がないままに行政からの委託に頼り続けて『下請け』になる。そんな負のスパイラルに陥っている面がある」その上で「地域内外で企業や団体と関係をつくり、発信力を強めて社会の変化につなげていく必要がある」と指摘されました。(R5.1.17 朝刊)

障がい者や生活困窮者支援、ヤングケアラーや子育て支援、環境保全、人権擁護等々、NPO が取り組む多様な活動は今や地域社会になくてはならない存在となっています。次世代の担い手を育てる仕組みづくりも市民の手で始まりつつある今、センターでも企業や各種団体との連携、そして発信力の強化を一層進めていきたいと思ひます。(さ)

センター情報

●団体活動にお役立てください!

市民活動応援講座「想いをカタチに! 市民活動のはじめ方」

地域の課題を何とかしたい! でも何から始めていいかわからない。
そんな方に活動の始め方から仲間づくりまで、事例を交えてご紹介します。

日時●5月27日(土) 13:30~15:30

場所●ひらつか市民活動センター A 会議室

講師●坂田美保子(ひらつか市民活動センター センター長)

対象●市民活動を始めたい、又は市民活動に関心のある方

定員●15名 参加費●無料

※イベントは感染症対策を徹底して開催いたします。ご協力をお願いいたします。



ひらつか市民活動センターでは、令和5年度も団体活動に役立つセミナーや研修、各種交流イベント、センターまつりなどを計画しています。
詳しい内容や日程は決まり次第、ホームページ・Facebook・情報紙・メールマガジン等でお知らせします。ぜひチェックしてね!!

新規登録団体のご紹介

2022年(令和4年)4月~2023年(令和5年)2月にかけて登録された市民活動団体をご紹介します。

●『ボーイスカウト平塚第4団』(令和4年5月登録)

……青少年の心と体を育成し、青少年教育のために活動する。

●『馬入花畑の会』(令和4年5月登録)

……平塚市と連携して、より多くの方に親しみ楽しめる花畑をつくっていく。

●『公益社団法人 日本リウマチ友の会神奈川支部』(令和4年6月登録)

……リウマチ疾患を有する者の福祉の向上に寄与することを目的とした活動。

●『湘南電設業協同組合 青年部会』(令和4年7月登録)

……電設業でしかできない力で地域社会に貢献し、これまで以上のコミュニティにしていきたい。

●『一般社団法人 ALTAM』(令和4年9月登録)

……老若男女障害の有無を超えだれもがその人らしく活躍できる社会の実現を目指しています。

●『サードブレイスもゆらに』(令和4年10月登録)

……多様な学びを検討している子ども達の居場所づくりとその活動のサポートをしています。

●『NPO 法人 湘南平塚ささ里地里山ラボ』(令和5年2月登録)

……里地里山の保全。地域活性化のため、課題にチャレンジする団体です。



編集後記

朝晩はまだ冷え込む日もありますが、街中にはいろんな花が咲き始め、ようやく春の兆しを感じられるようになりました。

今回、湘南平塚断酒会の例会に臨席させていただき、ありのままの自分を語り合うみなさんの姿に心動かされました。そこは春の陽だまりのような暖かさに満たされていました。(よ)

編集・発行

ひらつか市民活動センター

(開館時間 9:00~22:00 年末年始、施設点検日を除く)

〒254-0045

神奈川県平塚市見附町 1-8

TEL ● 0463-31-7571

FAX ● 0463-35-6601

Eメール ● info@hiratsuka-shimin.net

URL ● <http://hiratsuka-shimin.net>

センター登録団体数(2023年2月15日現在)

登録団体数 ● 459 団体

(内訳 市民活動団体…328 団体、一般団体…131 団体)



センターのマスコット
たすけくんといいちゃん

